青少年育成センターだより

第１７６号　２０２４．２．１

防府市教育委員会生涯学習課

青少年育成センター

０８３５－２３－３０１３

惻隠（そくいん）の情

今年の１月１日に石川県能登半島で震度７の地震が起きました。

それから１か月が過ぎましたが、被災地では、まだ多くの人が普通の生活に戻れずに苦しんでいる方がおられます。一日も早く、平常の生活に戻られることを祈念しています。

地震後には、警察、消防、自衛隊、医療関係者等多くの人たちが、わが身の危険や苦労を顧みずに被災者を支援する活動に従事しておられる姿がみられました。また、自治体や企業・個人から、被災地に必要な水や食べ物、生活物品等が届けられるなど、道路が寸断されて大変な状況でしたが、本当に早い支援が行われました。阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本震災等の被災者支援を経験して培われた支援のノウハウが生かされているのでしょうか、被災して困っている人に寄り添った温かい支援が広がっています。

また、避難施設でも被災者同士がお互いに助け合っている様子がテレビに映し出され、観ている者にも温かい気持ちが生まれました。一刻も早い復帰のため、何かできることをしていきたいものです。

しかし、そのような温かい人間同士の活動が見られた反面、ボランティアを装って、空き家のものを盗む、施設に侵入し客の荷物を盗むという「ボランティア泥棒」、屋根や外壁を無料で点検しますと点検したのち、このままでは倒壊しますと言い、高額な契約を迫るといった「偽業者詐欺」、にせ寄付を呼び掛ける投稿「義援金詐欺」等も起きているというニュースも聞きました。大変な思いで過ごしておられる人たちの気持ちをまったく考えない、人としてどうだろうかという、信じられないニュースも流れました。

日本人には、**「惻隠の情」**、“人が困っている姿を見て、自分のことのように心を痛める心もち”があると言われています。かつて、東日本大震災の時に、被災地の皆さんが助け合っている姿（惻隠の情による行動）が全世界で称賛されました。この能登半島地震においても、先にあげたように被災地の皆さんがお互い助け合う様子が見られています。この姿こそ、日本人の美徳なのだと思います。

「生ききる」（瀬戸内寂聴・梅原　猛　角川ＯＮｅテーマ２１）に、瀬戸内寂聴さんと梅原猛さん（哲学者）が東日本大震災の後に対談をされた言葉の中に次のような言葉がありました。

“東北の民の心の良さですよ。自分も、家族も犠牲者でありながら、他人を助けようとした人がたくさんいる。そして助け、助けられて、乏しい生活をしながらね、「助かってよかったな」とものを分け合う、そういう助け合いの精神。東北の民に残っている思いやりの精神が日本の希望なんです。これからの日本はそういう助け合いの精神、仏教でいう利他の精神の社会にならなければならない”

みなさんのご家庭でも、被災者のために何ができるのか考えてみましょう。子どもたちの心に「惻隠の情」が培われるのではないでしょうか。

文責＝青少年育成センター指導員　藤村